

新冠百話

第八十話

「新冠の着物焼沢（伝説）」

（解説含む）

新冠川の上流、牙のように切り立った日高山脈の山容の間から流れ出る支流の中に、「シユイカウシユナイ」という小さな沢がある。この名は、アイヌ語から名付けられた沢名であるが、「着物を焼く沢」という意味がある。

昔、天上界で多くの神々が集まり、新しく出来上がった人間の国土をながめていると、できあがったばかりの下界に二つの家がならんでいた。その家からは、一人ずつの美しい少女の姿が見えた。

それを、雷神（カンナカムイ）が一番前に出てニコニコしながら見とれていた。その様子を見ていた他の神様がいたずらをして雷神の体を後ろから突いた。すると、雷神はあつという間に雲から足をすべらせ、まっさかさまに下界へ向かって雷が落とされた。雷は二つの家を焼き、それぞれの家にいた美しい少女の春楡姫（チキサニカムイ）と厚樹姫（アツニカムイ）の着物も焼けてしまったのだった。そのため、二人の娘が立っていたこの沢

を「着物焼沢（シユイカウシユナイ）」と呼ぶようになった。

雷神の雷にふれて妊娠した春楡姫からは、顔が真っ赤な人間の始祖である「オキクルミ」が生まれた。厚樹姫からは、色が白いユカラの主人公である「ユカラカムイ」が生まれたと伝えられている。



古いアイヌ語地名を記す地図に「シウワイクウスナイ」の名が見える。今回のお話しの舞台になった場所であると思われる。この地図の注釈には「釣り人の仮小屋が火災になった」という意味で紹介され、地名の由来に諸説あることがわかる。いずれにしても、火事に関連する沢だったことが連想されるが、二人の重要な神が生まれる原因となった場所であることも興味深い。

夏の交通安全運動(7/13(日)～22(火))が実施されます！

- 飲酒運転の根絶
 - スピードダウンと全席シートベルト着用の徹底
 - 観光・夏型レジャー等に伴う事故防止及びバイクによる事故防止
 - 「ハンドサインでストップ運動」で事故防止
- 静内警察署

戸籍の窓

5月21日～6月20日までの届出分（敬称略）

●いつまでもお幸せに

宗元 悠真 ♡ 樋口 葵惟 北星町

●お誕生おめでとうございます

秋田 伍輝（英敏 友木子） 朝 日

●おくやみ申し上げます

山本 勲 67歳 太陽
尾崎 常雄 95歳 朝 日
有澤 喜代美 81歳 本 町
渡邊 周一 81歳 節婦町

●お問い合わせ先

町民生活課町民生活グループ住民係
☎ 0146・47・2112

人のうごき

（令和7年6月末現在）

人 口	4,972 人	（前月比 △ 7 人）
男	2,499 人	（前月比 △ 1 人）
女	2,473 人	（前月比 △ 6 人）
世 帯	2,809 世帯	（前月比 △ 10 世帯）

町公式ホームページ



町公式フェイスブック

